

第2学年 学級活動（1）指導案

令和6年 9月 日 第5校時

〇〇小学校 2年 組 名

指導者 〇〇 〇〇

1 議題名 「あかるいくんまつりをしよう」（ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決）

2 議題決定までの背景と経過

（1）児童の実態

本学級の児童は、「あかるく 元気に おもいやりのある2年〇くみ」の学級目標のもと、活発に友達と関わり合いながら、明るく元気に学校生活を送っている。一方で、自分の思いを押し通してしまう児童や、気持ちをうまく言葉で表現できない児童もあり、トラブルにつながってしまうことがある。自分の考えを大切にするとともに、友達の考えを尊重し、学級全員でよりよい2年〇組にしたいという思いをもって活動する学級集団に近づくために、学級目標を常に意識して行動してほしいと願っている。

学級会では、4月当初は司会グループもフロアの児童も話し合い活動の進め方が分からず、どのように自分の考えを伝えたり、決めたりすればよいのかとまどっていた。そこで、1学期にはオリエンテーションを含めて4回の学級会をし、すべての児童が司会グループを経験できるようにした。その際、教師が話し合いの進め方のプレゼンを用意したり、適宜助言をしたりして、進め方や意見の発表の仕方などについて指導してきた。回数を重ねるごとに一人一人の参画意識が高まり、フロアから司会グループに対し、「そろそろ決めよう。」という声も出てくるなど、学級全員で話し合い活動を進めるようになってきた。

話し合いを行う前には、児童が進んで自分の考えを発表することができるよう、予め学級会ノートに自分の意見をまとめる時間を設けている。話し合いの中で、学級会ノートに書いている意見を見ながら発表するという経験を積み重ねることで、自分の考えや思いを添えて活発に話す児童の姿を多く見るようになってきた。また、司会グループとともに、そのノートに書いている友達の考えをもとにして話し合いの進め方を考えている。

「学級のキャラクターを決めよう。」では、自分の意見を押し通すのではなく、友達の意見のよさを大切にしようとする言動が見られ、学級全員が自分の考えや思いを伝えることができた。「係活動を決めよう。」では、お互いの意見のよさに着目して融合案を出すことができた。その経験を生かして、その後の学級会でも融合案を考え、提案することができた。「雨の日パーティーをしよう。」では、学級が楽しくなるように計画し、初めてグループで準備を進める経験をした。そして学級全員で実践することができたため、その後の学校生活で学級会を楽しみにしている姿が見られるようになった。このように実践に向けて話し合うことに意欲的になるとともに、活発に意見を出すことができるようになってきている。

（2）議題決定までの経過

4月には、どのような学級にしたいかを話し合っ、学級会の名前が「キラキラ げん気 わくわく 思いやり学級会」に決定した。そして、その学級会の名前に込められた思いを表現した「あかるいくん」が学級のキャラクターに決定した。しかし、1学期は「あかるいくん」が活躍するような活動はできなかった。学級全体での動機付けが不十分だったため、名前に込められた思いへの意識が高まるよう見直しと改善を行い、9月に改めて児童と目指す学級像について話し合うとともに、学級のキャラクターを決めたときの気持ちを学級全員で振り返った。そのようにしたことで、学級のキャラクター「あかるいくん」

が活躍できるようにみんなで頑張りたい、工夫したいという意欲をもつようになり、『『あかるいくん』の学級旗をつくりたい。』『『あかるいくん』をテーマにしたお祭りをしたい。』などが議題として提案された。前回の「雨の日パーティーをしよう。」の経験から、「あかるいくん」が活躍できるように計画し、グループで準備することで、学級全員でお祭りを楽しみたいとの思いが大きかったため、「あかるいくんまつりをしよう」に決まった。

(3) 指導にあたって

事前の打ち合わせでは、司会グループ全員と教師が実際の話合い場面を予想しながら、話合いの進め方を考えている。本時の打ち合わせでは、提案理由を思い起こしながら、何をしたいかというそれぞれの意見が書かれた学級会ノート見ると、話し合うこと①と②について多くの意見が出ていた。そこで、最も多く出ていた「あかるいくんくじびき」と「スタンプカード」については、決まっていることとして帰りの会に全員で決定した。司会グループのメンバーは、児童だけで司会をすることに対して、まだ不安な様子であったため、励ましたり、適宜アドバイスしたりして安心して学級会に参加できるように声をかけ、入念に打ち合わせを行った。

以前行った「雨の日パーティーをしよう。」では、議題の提案理由に目を向けるように助言することで、提案理由を意識して自分の意見を出すことができていた。どのような係が必要かについては、これまでの全校集会を思い起こして考えるように助言したが、あまり児童からは意見が出てこなかった。本時では、話し合って決まったことに目を向けるとともに、「雨の日パーティーをしよう。」を思い起こして具体的に考えることができるように助言したい。

そして、学級全体で、学級会の名前に込められた思いを表現したキャラクターの「あかるいくん」が活躍できるような活動を考えたり、実践したりすることを通して、みんなで仲良く助け合い、きらきらげん気でわくわく思いやりのある2年〇組にしたいという意欲がさらに高まるようになってほしいと願っている。

3 評価規準

観 点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話合い活動や実践活動を通した思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評 価 規 準	楽しい学級生活に向け、話し合って解決することや他の児童と協力して取り組むことの大切さを理解し、話合いの基本的なきまりを身に付けている。	学級生活を楽しく豊かにするために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、仲良く協力して、実践している。	学級における人間関係をよりよくし、他の児童と協力しながら日常生活の向上を図るために、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

4 活動の流れと指導助言・評価規準

	活動内容	時間	指導助言	目指す児童の姿
話し合いの準備	役割分担・議題選定 (司会グループ)	9 / 18 昼休み	議題を整理し、提案理由を大切に して選ぶように助言する。	学級会で話し合う必要のある 議題を選んでいく。
	議題決定 (全員)	9 / 19 帰りの会	提案理由を理解して、みんなが話し 合いたいことに決めるように助 言する。	議題の提案理由を理解し、議 題の必要性に気付いている。
	話し合うことの検討 (司会グループ)	9 / 20 昼休み	話し合うことや提案理由に沿っ た自分の考えをもって、話し合い に参加できるように十分に検討す る時間を確保する。	話し合いを進められるように、 教師の助言を受けながら計画 を立てている。 自分のしたいことを具体的に な意見として持っている。
	話し合うことの決定 (全員)	帰りの会		
	自分の意見をまとめる (全員)	朝活		
	話し合いの打ち合わせ (司会グループ)	9 / 24 昼休み	意見を整理しながら、友達の考え を話し合いに生かせるよう助言す る。	学級会についての見通しをも ち、意欲的に取り組もうとし ている。
話し合い	「あかるいくん まつりをしよう」	9 / 30 (本時)	本時の活動に記述	
実践	準備 (全員)	10 / 1 ～ 休み時間	各係の準備状況に応じて打ち合 わせの時間を設け、助言する。	一人一人が自分の役割を理 解して、よりよい活動になる よう、準備している。
	実施 (全員)	10 / 9 3校時	各自が役割を果たしながら、協力 して活動できるように励ました り、助けたりする。	一人一人が自分の役割を果 たして、活動している。
振り返り	活動を振り返り、 生かす (全員)	10 / 9 帰りの会	頑張ったところを十分に称賛す るとともに、うまくいかなかった 点にも目が向くように言葉がけ をする。	活動を振り返り、自己評価し ながら、感想を話したり書い たりしている。 友達のよさやがんばりに気 付いて、次の活動に生かそう としている。

5 本時の活動

(1) ねらい

自分の意見に簡単な理由を付けて発表したり、友達の意見をよく聞いたりして、学級のみんなが
楽しめるような「あかるいくんまつり」の計画について話し合うことができるようにする。

(2) 活動計画

(別紙)

(3) 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】
1 はじめの言葉		
2 司会グループの紹介	・自分のめあてが言えるように、事前に指導する。	
3 議題の確認	・提案者の思いや願いを学級全体で共有させ、全員の問題であることを確認できるようにする。	
4 提案理由の確認	・本時の話合いの大事な部分であるため、声に出して読んで改めて確認させ、しっかり意識しながら話し合えるようにする。	
5 めあての確認	・めあてに沿った話合いができるように励ます。	
6 決まっていることの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・決まっていること ・10月23日の6時間目に教室です。 ・お祭りのお店形式です。 ・あかるいくんダンスをする。 ・みんなが楽しめることをする。 	
7 話合い 話し合うこと① 「あかるいくんを元気にするために何をするか」 話し合うこと② 「あかるいくんがかつやくするためにどんなくふうをするか。」 話し合うこと③ 「なんのかけりをするか。」	<ul style="list-style-type: none"> ・司会が進行に困ったときや話合いの方向性がずれたとき、自治的活動の範囲を超えそうな場合には、留意しながら助言する。 ・発表者が偏らず、できるだけ多くの児童が発表できるように、司会グループの児童と相談する。 ・話合いが深まるように、少数派の意見もしっかりと取り上げるように伝える。 ・自分の意見に固執せず、納得した上で考えを変えるなど、折り合いをつけることも必要であることに気付くことができるようにする。 	◎理由を付けて意見を発表したり、友達の意見を聞いたりすることができる。 (知識・技能) 【観察・司会グループ活動計画】 ◎提案理由に沿ったお店の内容や工夫について考えている。 (思考・判断・表現) 【観察・学級会ノート】
8 決まったことの発表	・ノート記録の発表に不足のある場合は補う。	
9 振り返り	・めあてについて振り返り、理由を付けて話すことで、決まりやすくなるということに気付けるようにする。	
10 先生の話	・めあてや提案理由に沿った児童の意見を取り上げ、具体的に賞賛する。	
11 おわりの言葉		

(4) 指導助言

- ・学級の子みんなが楽しめるおまつりをイメージしながら、話し合えるように支援する。
- ・話合いの状況を見極めて、適宜、提案理由や決まっていることに目を向けられるような助言をする。

(5) 評価規準

- ・自分なりの理由を付けて意見を発表したり、友達の意見を聞いたりすることができる。
- ・自分や友達の意見のよさを生かしながら、合意形成を図ることができる。

だい 7 回 学級会のけいかく 9月30日(月)

ぎだい	あかるいくんまつりをよう。		
ていあんりゆう	あかるいくんをか、つ くせてもっとおとなが つおとなであくあぐで きる 2年2くみしにたいが	ていあんしや	
しかいグループ	しかい	こくばんきろく	ノートきろく
時間	話合いのじゅんじょ	気をつけること	
5	1 はじめのことば 2 しかいグループのしょうかい 3 ぎだいのかくにん 4 ていあんりゆうのはっぴよう 5 話あいのめあて	〈話合いぜん体について〉 なるべく ぜいめん がはっけんできるよ うにする。	
20	話し合い①(15分間) 2:10 なをやるか あと4こ	〈はしら1について〉④そのいけんをいか くいびきはする ・いけんのりゅうをきく	
40	話し合い②(15分間) 2:25 くふうなこで 話し合い③(5分間) 2:30 なをやるか	〈はしら2について〉 ・いけんのりゅうをきく スタンプカードはする。	
	6 きまったことのはっぴよう 7 話あいのふりかえり 8 先生のお話 9 おわりのことば	〈きまっていること〉 ①おみせけいしきをする。 ② あかるいくんダンスをする。 ③ みんなが楽しめることをする。	